



NEWS LETTER

No.29
2021

就任のご挨拶

男女共同参画推進室長 理事・副学長 花輪 公雄

日頃、山形大学男女共同参画推進室の事業についてご理解とご協力をいただき、誠に有難うございます。私は今年度より男女共同参画推進室長に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

2020（令和2）年度から実施されている「山形大学男女共同参画基本計画（第2次）」では、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、男女共同参画に加えダイバーシティに関連する活動をいっそう推進することを目的に、方針および具体的施策を定めています。この中では、女性教員比率や女性管理職比率に高い目標を設定し、無意識のバイアスや性的指向・性自認等への配慮なども明記しました。昨年度末には、「多様な性に関するガイドライン」を作成し、本学の多様な性を尊重する姿勢を打ち出しています。

今年度初めの男女共同参画推進委員会では、第2次基本計画に基づき、種々の事業計画について検討しました。教育・研究および就労と家庭生活との両立のための各種支援についても拡充し、女性研究者の裾野拡大などや、各キャンパスでも年度計画に基づいて様々な具体的取組を開始しています。

また、第2次基本計画の進捗に関する評価の年として、達成状況に関するアンケートを実施します。さらに今年度は、第3期中期目標・中期計画の最終年度でもあり、目標達成に向けて取組を推進するとともに、アンケートに対する分析と評価を次期計画に反映させていきます。また、大学コンソーシアムやまがたの「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」や「全国ダイバーシティネットワーク組織」東北ブロック会議など、これまでに構築したネットワークをいっそう充実させていきます。

山形大学における男女共同参画の推進に、皆様方のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



花輪 公雄 理事・副学長

男女共同参画推進室 チーフ・コーディネーター 柿崎 悦子



日頃、男女共同参画推進室の様々な事業について、ご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。4月から山形大学男女共同参画推進室のチーフ・コーディネーターとして務めております柿崎悦子と申します。山形大学の男女共同参画について、皆様より様々な状況をうかがいながら推進してまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度は第2次山形大学男女共同参画基本計画の実施2年目にあたり、計画の推進状況の把握や課題の発見のために、アンケートを実施しました。このアンケートは本学男女共同参画推進準備室を設置した2008年から継続的に実施しており、今回で第7回目となります。今まで実施したアンケートの結果は、その時々を取り組むべきことや第2次基本計画の策定に大きな役割を果たしてきました。今回の結果は、今後、男女共同参画推進委員会において分析をし、報告書等で皆様にお知らせすると共に、2022年度からの男女共同参画及びダイバーシティの推進に向けての様々な取組に反映させてまいります。

引き続き、男女共同参画の事業についてご協力をお願い申し上げます。



第1回男女共同参画推進委員会報告

5月21日に第1回の男女共同参画推進委員会が開催されました。

今年度は、男女共同参画推進室スタッフの体制が変わり、推進室ミーティングを月1回をめぐりに開催しながら、男女共同参画及びダイバーシティ推進についての事業の原案の立案や事業の実施を行っています。それらは、全て男女共同参画推進委員会で検討、了承されています。また、男女共同参画アンケートの実施年でもあり、例年の会議に加えて秋に推進委員会が開催されます。

会では、初めに第2次山形大学男女共同参画基本計画に基づく、令和3年度の年度計画や事業計画が協議されました。また、男女共同参画アンケート、男女共同参画セミナー、女性大学院生ネットワークや多様な性のガイドラインなどについても報告・検討されました。各キャンパスの年度計画の評価や課題の報告があり、様々な取組の成果も報告されました。



令和3年度山形大学男女共同参画セミナー(南東北会議研修会) ～ダイバーシティの次のステージに向けて～を開催しました。

6月28日に「ダイバーシティの次のステージに向けて」をテーマに、大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」、全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック南東北会議と共催し、セミナーを開催しました。

セミナーでは、令和2年4月に施行された第2次山形大学男女共同参画基本計画に基づく取組を報告するとともに、東北地区のネットワーク拡大を図りました。当日はオンラインにもかかわらず、東北地区の関係機関から約50名の方にご参加いただき、講演後には活発な質問がなされるなど有意義なセミナーとなりました。

講演：東北大学副学長 大隅典子氏

「東北地区のダイバーシティを推進するために～ネットワークによる女性研究者の活躍促進～」と題し、オンラインでご講演をいただきました。

冒頭に金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」の詩に触れられ、人生を歩む原点となられたとの話から始まりました。

女性の活躍推進について、女性の能力が活かされていない現状や、初等中等教育現場でのバイアス感の存在、社会に出てからも、企業入社後の数年間の中で女性がリーダーに登用されない現状についてお聞きしました。

これらの現状分析から、ロールモデルの必要性、裾野拡大の重要性ということや、サステナブルな男女共同参画を推進していきたいということ、また、研究力向上のために女性に参加してもらうことやリーダーの育成についての話もありました。

ご講演の終わりに、アメリカ合衆国大統領を支えるメンバーを示され、意思決定にかかわる女性を増やすと同時に、サポーターの男性も増やすことにも言及されました。

セミナー参加者からは、実践事例が大変参考になった、詳細なデータからの分析により現状の問題点がわかった、今後の取組の参考となった、無意識のバイアスの問題は深刻だ、などの感想がありました。

このセミナーの様子は、大隅先生のご厚意により、学内の教職員の研修用にオンデマンドとして配信しました。

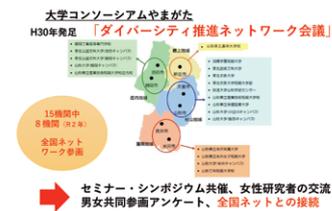


オンラインの講義の様子

山形大学の男女共同参画の歩み



山形県内のダイバーシティネットワークの推進



男女共同参画アンケートを実施しました

今年度は第2次山形大学男女共同参画基本計画の実施2年目にあたり、計画の推進状況の把握や課題の発見のために、アンケートを実施しました。今回で7回目となり、結果は男女共同参画推進委員会において分析をし、報告書等で皆様にお知らせすると共に、来年度からの男女共同参画及びダイバーシティの推進の取組に活用いたします。アンケート回収率は前回を上回る35.9%となり多くの皆様にご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

実施日：令和3年7月2日～8月2日

分析：男女共同参画推進委員会

報告：令和4年3月発行 男女共同参画報告書

山形大学附属図書館 特別貸出コーナー

小白川図書館の男女共同参画推進やダイバーシティ関係の書架に、独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)の特別貸出コーナーがあります。図書館に入り左に進んだ入り口にあり、3ヶ月ごとに書籍の交換が行われます。

今年度のテーマは下記の通りです。

どうぞ、ご活用ください。

4月から 6月 「ジェンダー、しごと、家族、生き方、こころとからだ」

7月から 9月 「SDGs、男性性、家族、しごと、生活」

10月から12月 「政治、人間関係、ダイバーシティ、病気・闘病記、移民」

1月から 3月 「シングル・家族、健康・からだ、メディア、美術」



中澤 未美子 先生

学術研究院 准教授(工学部学生支援担当)



私は、米沢キャンパス「学生相談室」で働いています。精神保健福祉士と公認心理師という資格(どちらもメンタルヘルスの専門の国家資格です)で、学生の生活面の相談や心理的な悩みについて一緒に考えるというのが主な仕事です。

山形大学に着任したのは2018年で、2021年4月で3年目に入ります。まだまだ私自身が山形県での暮らしに慣れていませんが、子どもたちはスキーを楽しんでいます。さて、今回はこの場をお借りして、私の仕事や研究のことを少しご紹介します。

まず学生相談という仕事ですが、だれにも言えない深刻な悩みから、ちょっと気軽に話してみたいなということまで、様々な相談内容が寄せられます。どのような悩みであってもカウンセラーには守秘義務がありますので、相談したことが相談室以外に漏れることはありません。一人で抱え込まずに、相談して欲しいと思っています。相談の内容によっては周囲の協力が必

「誰もが過ごしやすい大学に。メンタルヘルスの観点からの実践研究」

要なこともありますので、その場合は相談者の了解を得て、他の人の力も借りて環境改善を目指すこともあります。昨今はコロナ禍ということもあり、自分でも気が付かないうちに心の疲れが出ていると思います。早めに、気軽にコンタクトして欲しいと、Twitterなどでも相談室のPRをしています。相談室を身近に感じてもらって、友達にも利用を勧めてもらえるようになると思います。

ここからは私の研究についてお話しします。専門は、大きく分けて2つあります。一つは、先に述べた学生相談の実践研究です。学生の支援に、どのようなことが有効だったのか事例研究をしています。もう一つは、ハラスメントに関することです。特に、加害者と呼ばれる方たちの対応に関心があります。加害(的)言動がなぜ起きてしまうのか、またそれを防ぐ手立てには、どのようなことがあるのかの検討を続けています。例えばセクハラに加害者には、無意識や無自覚などの個人の特性も関係していますが、社会システムの方に目を向けると、科学的で有効な性教育を受けてこなかったことが加害言動に大きく関係している可能性もあります。またSOGIハラ(Sexual Orientation, Gender Identity)に関するハラス

メント)には多様な性に関する知識が欠けているがゆえに起こるといった報告も散見されます。このように、知らないことによって人を傷つけてしまうことを、知ることによって防ぐという仕組み作りが必要であると考えています。特に私が参照しているのがデンマークの教育の在り方です。日本とは文化や社会構造が違いますから、そのまま参照することはできませんが、視点が広く開けることで、人々の意識が向上したり、第三者がハラスメントを防ぐことができたりする可能性もあると考えています。山形大学には多様な性に関するガイドラインができました。多くの人に手に取ってもらい、少しでもよりよい社会について一緒に考えていけたらいいなと思っています。



カウンセリングの風景
(コロナ禍ではアクリルパネルを使用)

多様な性に関するガイドライン

第2次山形大学男女共同参画基本計画の具体的施策の4にあるように、個々の性別・性的指向・性自認等にかかわらずに本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れることができる組織を目指し、令和2年度末に「山形大学における多様な性に関するガイドライン」を策定しました。そのリーフレットは4月に新入生に配付しており、ガイドラインは各キャンパスのインフォメーション、各施設等に配付しております。

ガイドラインの内容は以下のとおりです。

***はじめに**

I「多様な性」を尊重する大学であるために

- (1) 基本的な用語 (2) カミングアウトとアウティング (3) ハラスメントの防止

II 本学の姿勢と現段階での具体的対応

- (1) 啓発・研修 (2) 通称名 (3) 性別情報 (4) 授業 (5) 健康診断 (6) 就職活動、教育実習・介護等体験・インターンシップ等 (7) 留学の対応 (8) 施設 (9) 相談窓口

III 学生、教職員、附属学校への対応

- (1) 通称名 (2) 性別情報 (3) 授業 (4) 健康診断 (5) クラブ活動、学外活動、就職活動 (6) 学生サークル (7) 施設 (8) 相談窓口 等

***おわりに**

***巻末資料** 誰でも使用することができる可能なトイレ・学内の相談窓口の一覧

年度初めに推進室で小白川キャンパスのだれでもトイレの設置場所等を確認してみました。各キャンパスも設置場所は限られていますが、活用いただければと思っております。ガイドライン全文は男女共同参画推進室のホームページでもご覧になれます。



本部事務棟1Fトイレ

編集後記／キャンパス内を新入生が行き来する春は、大学らしい日常が戻ってきたように感じました。その後の、様々な状況変化に対応しながら、あっという間に半年が過ぎようとしています。男女共同参画推進室の体制も大幅に変わり、どのように男女共同参画及びダイバーシティを推進していくか模索の日々です。アンケートにご協力いただき、それを基に着実に事業を実施していきたいと考える毎日です。(2021年8月)



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL 023-628-4937/4939
E-mail y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/